

南丹市健康増進計画・食育推進計画（中間案）に係る意見等とそれらに対する南丹市の考え方

	ご意見	指 摘 箇 所		ご意見に対する南丹市の考え方
		ページ	項 目	
1	子どもの時から、ストレスに強い我慢強さを教育習慣化し、身に付けさせることが大切。	P 8	第3章 健康増進 2 分野別の取組 3) 休養とこころの健康	こどもの生活習慣を整え、心身の安定をはかることで、こどもは家庭や地域の取り組みを理解し、身に付いていくと考えます。ライフステージ別でも同様な取り組みをしていきます。
2	人が何をどれだけ食べればいいのか、年齢に応じた指導が必要。中学生の時に授業で、食べ物の尊さを学んだ経験がある。	P 1 8	7) 生活習慣病予防	生活習慣病は、悪い生活習慣の積み重ねの結果であり、予防や早期発見・早期治療が大切であると考え、ライフステージ別でも取り組んでいきます。また、食事は健康の源であり、食べ物の大切さ・尊さの学んでいくことは大切であると考え、食育推進計画の取り組みの中に含んでいます。
3	妊娠・出産・授乳期後の食事の取り方の指導が必要で、その後の肥満につながる。 若い時からの生活習慣が影響することを教育する。 エネルギーの出納についての教育を、この分野に長けている現役リタイヤの人の協力を得て、自治体として取り入れる。		3 ライフステージごとの取り組み 1) 妊娠期 5) 壮年期 6) 高齢期	生活習慣病は、悪い生活習慣の積み重ねの結果であり、予防や早期発見・早期治療が大切であると考え、ライフステージ別でも取り組んでいきます。 妊娠期は、妊婦自身が自分の健康と生まれてくる児や家族の健康を考え、実行できるようになることが大切です。乳幼児期、学童・思春期は、親・家族・学校・地域で教えられたことを自分の力で実行できることが大切であり、青年期は継続して実行することが、壮年期・高齢期の健康につながると思っています。個人の健康づくりに加えて、家庭、地域、学校、関係機関・団体、行政等様々な分野と連携し、社会全体で健康づくりを支援します。

4	<p>自治体の取り組みは大切だが、まずは個人の若い時からのこころがけにかかっている。</p> <p>若い現役時代から、どんなに忙しくても、時間はこころがけ一つで創り出せるので、趣味や福祉に興味を持ち、自分の高齢期のライフスタイルを作っていく。</p> <p>若いころから、高齢になっても社会から期待される人をつくり、期待に応えられる努力をすべきである。高齢になってからでは遅い。</p>	P 3 4	今後の取り組みについて	<p>こどもの時からの心身の健康づくりが大切です。将来を見据えて、妊娠期から高齢期までのライフステージに応じた目標を設定し、市民一人ひとりの生涯を通じた健康づくりの推進を支援します。</p>
---	---	-------	-------------	---